

あたら まち  
新しい街づくり(1)  
せいしんちょう りんかいちょう  
清新町・臨海町

昭和58年(1983)、江戸川区の南に位置する葛西沖に清新町と臨海町が誕生しました。葛西沖に広がる干潟(浅瀬)を埋め立て、人口2万人を超える集合住宅と産業の拠点となる大規模施設が建設された300haを超える広大な街です。平成元年(1989)には、葛西臨海公園が開園し、水族園、鳥類園、海浜公園、人口なぎさなど、自然環境と憩いの空間が誕生しました。同5年(1993)には、葛西の南部地域を横断する総合レクリエーション公園も完成し、区外からも多くの人々が集まる活力あふれる地域となっています。

### 葛西地区と葛西沖

葛西地区は、昭和30年(1955)頃までは、古くからの漁村として知られていました。葛西沖には、約3kmに渡って三枚洲と呼ばれる浅瀬が広がり、夏はアサリやハマグリ、冬は海苔の養殖など、海の幸が豊富に採れました。

しかし、一方では、塩害、高潮、大津波などの自然災害にも数多くみまわれ、度々通過する台風は河川の氾濫や田畑の冠水、家屋の床上・床下浸水など、大きな被害をもたらしました。さらに、昭和40年代には地下水のくみ上げや天然ガスの採取による地盤沈下、廃棄物処理業者によるゴミの不法投棄なども問題となっていました。

### 葛西沖開発土地区画整理事業

埋め立ての構想は、昭和の初期からありましたが、正式に開始されたのは昭和47年(1972)でした。江戸川区は、同56年(1981)に地元住民の意見を集約し、「総合病院や都立高校の誘致など公共施設の整備」「臨海公園などレクリエーション機能の充実」という、この二つを柱とする答申(葛西沖埋立地開発審議会)を行い、これ



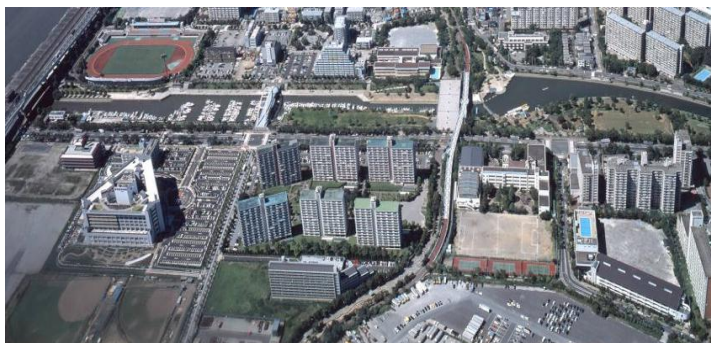
葛西沖での潮干狩り

らが事業に反映するよう東京都に働きかけました。

### 新しい発想のまち：清新町

町名は、200以上あった候補の中からフレッシュで新しい街をイメージする「清新町」と名付けられました。

住宅を中層・高層・超高層と変化を持って配置し、電柱の地中化やレンガ敷きの歩道に合せた街灯、また、建物の外観やそれを取り巻く公園や植栽



清新町二丁目(上)と臨海町一丁目(下)

も工夫するなど、これまでの「団地」とは異なる街づくりを目指しました。住民の入居は、昭和58年(1983)3月から本格的に始まりました。区立小・中学校が開校し、清新町コミュニティ会館も開館、同59年(1984)には、陸上競技場、区球場などの区民施設が次々と建設され、同61年(1986)3月までには5,878戸の入居が完了しました。

### 特色と活力あるまち：臨海町

しんさこんがわ  
新左近川以南に生まれたまちが「臨海町」です。町名は、東京湾に残された貴重な海辺である葛西沖にちなんで命名されました。広くゆったりした空間にトラックターミナルや中央卸売市場葛西市場、下水処理施設など、広域的に重要な大規模施設が数多く建設されました。昭和60年(1985)に都立高校が移転開校し、同63年(1988)にJR京葉線葛西臨海公園駅が開業、平



新左近川親水公園

成6年(1994)にはマリーナがある新左近川親水公園も完成しました。水辺と緑に親しめる空間となり、家族連れや多くの人たちで大変にぎわっています。

そして同14年(2002)には、区民の念願であった東京臨海病院も開業しており、清新町につづいて臨海町のまちの姿が完成されました。

## 江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階  
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)